

平成27年度 第4回江別市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録（要点筆記）

日 時：平成27年8月25日（火） 午後3時00分から午後3時50分

場 所：江別市民会館 37号室

出席委員：澤井秀座長、中川雅志座長代理、粕谷健一郎委員、高木玲子委員、龍田昌樹委員、成田将之委員、伏屋渉委員、向井茂委員、笠井孝一委員（計9名）

欠席委員：福本庸委員、小松芳幸委員、本間雅彦委員（計3名）

オブザーバー：田辺きよみ（石狩振興局地域政策部戦略策定支援担当部長）、中野亮二（江別商工会議所）

事務局：北川企画政策部長、三上次長、白石企画課長、千葉政策推進課長、大槻企画課主査、坂本企画課主査

会議概要

1 開会

2 （1）江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について

【江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案の説明】（事務局）

【質疑応答】

○龍田委員

重要業績評価指標（KPI）の目標値は膨大な資料やデータに基づいて設定されていると思いますが、やはり目標値を設定した根拠が重要と考えます。今後、KPIを基に具体策を進めていくことと思いますが、漠然とした目標値だけを追い求めることで、当初の目的意識が薄らいでしまうことが危惧されます。目標を設定した根拠を明確にしたうえで、施策につなげていただきたいと思います。

例えば、基本目標③、具体的施策（1）、④男女の出会いの場づくりの指標でイベント参加人数5年間累計200人となっておりますが、同窓会などでも50人を集めることができ、これを5年間実施すれば250人となります。そう考えると、この目標値である200人は低すぎるという気もします。様々な考えがあつてこの数値としているとは思いますが、その考え方が総合戦略からは読み取ることができません。そのような質問に答えるためにも、数値が明確になっているものは、根拠を一覧などにして示したほうが良いのではないかと思います。

○澤井座長

根拠の説明について、事務局は検討をお願いします。

○笠井委員

前回の繰り返しになりますが、基本目標②のえべつへの新しい人の流れをつくるについて、人口減少を食い止めるためには、江別に引き続き住んでもらうということも

大事だと思いますが、江別に通勤する人や、まったく縁のない人に住んでもらうという意味が込められているのかと思います。その点から、総合戦略の KPI が内向きであるということを前回ご指摘しており、すでに反映されているものもあるかもしれませんが。しかし、江別市の情報発信は足りているのでしょうか。私は仕事柄、いろいろな広告や媒体を見ているつもりですが、その中で江別の情報はあまり多くないという印象です。

基本目標②の数値目標である、江別市の認知度の道内順位について、現在 19 位で 5 年後には 18 位を目指すとなっています。19 位から 18 位になることについて、市職員の皆さんは大変なことと捉えていらっしゃるのかもしれませんが、このくらいでよいのかどうか、例えば札幌市民に江別の顔が見えているのかということに関しては、今の情報発信の仕方は十分ではないと考えます。

前回もご指摘しましたが、基本目標②の具体的施策 (3) - ②、江別に住んでもらうための観光・産業情報の発信の KPI で「江別市の情報発信力が高いと思う市民の割合」というものがあります。やはり、ここは江別市以外の人が江別市をどう認識しているか、という数値であるべきだと思います。

○事務局

総合戦略などの成果指標として特にアンケートを重視し、客観性のある説明に努めております。そのためには、アンケートの実施に当たって対象の偏りを防ぐことが重要です。ご指摘にありました、市外からの目線が必要であるということについては、十分認識しているところですが、例えば名簿がない札幌市民に対して無差別抽出もできませんし、街頭での聞き取りでは精度の高さが問題となります。このようなことから、市外からの目線による指標については、今後の検討課題とし、また、何かご提案がありましたら検討してまいりたいと思います。

ご指摘のあった、江別市の認知度の道内順位を 19 位から 18 位にするという目標値について、目標が低いのではないかということにつきましては、市役所の内部でも相当議論があったところです。一方で、道内 179 市町村のうち江別市より有名な 18 の市町村を、認知度で上回るということの難しさも認識しておりまして、根拠もなく順位を 3 つ 4 つ上げるということも無責任な約束ではないかという判断から、1 つずつ順位を上げていくという考え方で設定したものです。

○成田委員

基本目標①の指標である、市内企業へ就職した市内の新卒者数（高校・大学）について、目標値が 250 人となっています。高校生についてはハローワークを通さなければ就職できない仕組みになっており、大学については各校が無料職業紹介の届け出をいただいています。市がこの指標を設定するということは、市役所が無料職業紹介の届け出を出されるということでしょうか。

また、基本目標①の (3) - ②の潜在労働力の掘り起しにかかる KPI について、すでに実施されていますが、例えば女性に対する就労支援について実際に事業を行ってい

るのは、市から委託された札幌の A 社であり、高校生に対するセミナーは B 社、介護職の希望者に向けた事業では C 社、有給インターンシップ事業についても A 社が実施しています。総合戦略において、人の流れを市外から江別へということがありましたが、お金の流れは江別市から市外へとなっているように思います。そのようなことから、ここは江別市の職員が直接実施し、市内に少しでもお金が落ちるような事業を構築する必要があるのではないかと思います。

○事務局

ご意見の前段、市が職業紹介をするのかという件については、市が届け出をして斡旋するというものではございません。指標はあくまでアウトカムということで、市内の企業誘致や仕事の場をつくるという江別市の活動の中で、結果的にどれだけ新卒者が市内に就職したかということ測るための数値です。

また、後段の事業の運営について、本年度の 4 つの事業については市外の企業への委託となりましたが、これはプロポーザルを通して、事業者からの提案を検討した結果であります。残念ながら、市内でこれらの業務を担っていただける企業はございませんでした。また、江別市の職員による実施につきましても、職員の能力が必要なレベルに達していないこともありまして、今後の研究課題とさせていただきたいと思えます。

【その他質問・意見なし】

【戦略案のパブリックコメント募集について確認】（澤井座長）

3 その他

【次回以降の有識者会議の日程について】（事務局）

【石狩振興局地方創生セミナーの紹介】（石狩振興局 田辺部長）

4 閉会